

令和5年度 中部厚生センター献血推進協議会 議事録（要旨）

日時：令和5年11月22日(水)15:10～15:40

場所：上市町保健福祉総合センター2階研修室

1 開 会

委員25名のうち、本人14名、代理3名の合計17名出席

2 議 事

献血事業の推進について、配付資料に基づき説明

3 質疑応答

【委 員】

血液の保存期間はどれくらいか。

【事務局】

有効期限について、赤血球は4週間（28日）、血しょう（凍結血漿）は1年間、血小板は4日間である。血小板献血については、病院から連絡を受け、マリエ献血ルームで採血をしている。富山県内の病院で使われる量の3日間分の血液の備蓄をしている。

【委 員】

5年度の目標の中で、血液の量や人数を減少させているのは、今後増加があまり見込めないということか。

【事務局】

計画については、数年の使用量等過去のデータを勘案して、翌年の必要量を推定し、計画をたてている。令和6年度の献血の全体量、人数が減ってきている理由の一つとして、病院で使用される血液製剤のほかに、血液からしか作れない薬の原料としての確保もしており、薬品会社に納入している。薬の原料となる血液確保のために東京、大阪、名古屋に専門の献血ルームが新設され、本格的に稼働し始めたので、薬用に確保する量が減っている。ただし、今後の血液の需要がどのように動いていくかによるので、必要量は減っていくとは限らず、増える可能性もある。

4 閉 会